

参考2 クビレミドロに対して想定される影響の内容と確認・対応の方法（存在・供用時）

区分	インパクト	想定される影響（評価書における予測結果）	確認・対応の方法
存在・供用時	埋立地の存在	<p>【海岸地形の変化】</p> <p>・クビレミドロ生育域周辺における流速の変化は1cm/s未満、波高の変化は0.1m未満、地盤高の変化は2cm未満であり、現況の生育環境（流速：上げ潮時1.0～1.9cm/s、下げ潮時0.6～2.0cm/s、波高：年間を通じて0.4m未満、地盤高：+0.5～1.1m）は維持される。</p>	—

新たに報告された生物に対する対応について

1. 情報収集及び生息場所（生息環境）の推定

- ・新たに報告された生物についての記載文献^{※1}の収集もしくは発見者（論文の著者）^{※2}に対する聞き取りにより、当該種の形態、生息（生育）確認位置、生息情報等を把握する。
- ・これまでの調査において保管している標本（写真撮影による記録を含む）のうち、同定が困難ため「不明種」とした標本の中に、当該種が含まれていないかどうかを確認する。
- ・以上の情報をもとに、当該種の生息場所（生息環境）を推定する。

2. 環境保全措置に係る基本方針

- ・当該種の確認調査については、限られた情報の中で当該種を発見することは極めて困難と予想されること、種によってはこれまでの調査方法とは別の特殊な採取方法が必要となること、調査による攪乱が生息・生育環境に影響を及ぼすおそれがあることなどから、基本的に行わないこととする。
- ・工事の実施に際しては、当該種が生息・生育すると考えられる埋立区域外の環境に対して、工事の影響を極力少なくし、その保全に努めていくこととする。
- ・底生動物等の移動では、レットデータブリックに記載された重要な種を移動の対象としているが、新たに報告された生物に該当する可能性がある種が採取された場合は、あわせて移動措置を講じることとする。また、事後調査等において当該種が確認された場合は記録することとする。

(参考)「著しく高い生物多様性を擁する沖縄県大浦湾の環境保全を求める19学会合同要望書」における辺野古・大浦湾海域から近年報告された特筆すべき生物の、本事業に係るこれまでの調査における確認状況

分類群	名称	理由	本事業に係るこれまでの調査における確認状況 (○：確認済、×：未確認、△：軟体動物について死殻のみ確認)	
刺胞動物	カゲロウツブスナギンチャク <i>Microzoanthus kagerou</i>	新科新属新種	×	
	アオサンゴ <i>Heliopora coerulea</i>	特筆すべき個体群	○	事後調査において詳細観察地点を設定
	コモチハナガササンゴ <i>Goniopora stokesi</i>	特筆すべき個体群	○	大浦湾(中干瀬内側1地点、西岸3地点)で延べ8回確認
軟体動物	ザンノナミダ <i>Semelangulus lacrimadugongi</i>	新種	△	辺野古、大浦湾(瀬嵩)で死殻のみ延べ5回確認
	フタツアナスカシカシパンヤドリニナ <i>Hypermastus ryukyuensis</i>	新種	○	平成25年度春季に大浦湾(カヌチャ前)で1例(写真)記録
節足動物	オオウラコユビピンノ <i>Uruma ourana</i> *	新属新種	×	
	ライデンテナガカクレエビ <i>Cuapetes lacertae</i>	国内初記録	×	
	タカノツメカクレエビ <i>Periclimenes incertus</i>	国内初記録	×	
	クダヒゲガニの一種 <i>Paralbunea takedai</i> *	新種	×	
	ヨコエビの一種 <i>Leucothoe obuchii</i>	新種	×	
	ニシヒラトゲコブシ <i>Arcania novemspinosa</i>	国内初記録	×	
	シンノカンザシ <i>Cardiodectes shini</i>	新種	×	
	チゴスナモグリ <i>Paratrypaea maldivensis</i>	国内初記録	×	
	キザミロウソクエビ <i>Processa affinis</i>	国内初記録	×	
	イトアシロウソクエビ <i>Processa filipes</i> *	新種	×	
	クボミロウソクエビ <i>Processa hayashii</i>	新種	×	
	オオウラフトウデスナモグリ <i>Rayllianassa rudisulcus</i> *	新種	×	
魚類	トカゲハゼ <i>Scartelaos histophorus</i>	特筆すべき個体群	○	大浦湾奥部にて確認、事後調査においても調査対象
	ヒシヒレオオモンハゼ <i>Gnatholepis yoshinoi</i>	新種	○	平成21年度夏季に宜野座村前原地先で1例(ビデオ映像)確認
苔虫動物	コケムシの一種 <i>Lanceopora</i> sp.	未記載種	×	
棘皮動物	ナマコ類未記載2種、国内初記録6種	未記載種	(○)	講演要旨集に種名が記載された1種(クレナイオオイカリナマコ)については、平成22年度秋季及び冬季に2回(同一地点)記録
	オオウラハネウミシダ <i>Heterometra quinduplicava</i>	国内初記録	×	
海藻	マジリモク <i>Sargassum carpophyllum</i>	特筆すべき個体群	○	大浦湾(辺野古地先付近～湾奥部西岸)で確認
	海藻類未記載種4種	未記載種	(○)	1種(ウミウチワ類)は大浦湾(辺野古崎付近)で、1種(ミルモドキ類)は大浦湾(辺野古崎付近)及び宜野座村前原地先で確認

*当海域のみから記録される種(2014年9月現在)

資料：著しく高い生物多様性を擁する沖縄県大浦湾の環境保全を求める19学会合同要望書

ウミボツスの分布状況について

1. 調査実施状況

- ・ウミボツスは表-1.1 に示すインベントリー調査において主に確認されている。
- ・インベントリー調査は平成 19 年度の夏季から平成 26 年度の春季にかけて実施しており、平成 19 年度及び 20 年度の調査結果は評価書の本編（第 6 章 6.19.1 海域生態系）に、平成 21 年度及び 22 年度の調査結果は評価書の参考資料に記載されているが、平成 23 年度以降の調査結果は評価書には記載されていない。

表-1.1 インベントリー調査の実施概要

調査年度	調査時期	調査地点	評価書での記載
平成 19 年度	夏季～冬季	図-1.1 に示す 220 地点	「文献その他の資料調査」として評価書本編に調査結果を記載
平成 20 年度			「現地調査」として評価書本編に調査結果を記載
平成 21 年度			「現況調査」として評価書の参考資料に調査結果を記載
平成 22 年度	春季～冬季		
平成 23 年度		春季：212 地点* 夏季～冬季：217 地点**	(記載なし)
平成 24 年度			
平成 25 年度		217 地点**	
平成 26 年度	春季		

注) *：全 220 地点のうち 178～182 及び 291～293 を除く 212 地点を対象とした。

**：全 220 地点のうち 291～293 を除く 217 地点を対象とした。

改変区域内の調査地点は 22 地点であり、調査時期を通じて調査対象となっている。



図-1.1 インベントリー調査地点（●で示した 220 地点）

注) 評価書では、平成 19 年度の調査地点名については E101～E320 と表記している（位置はイ 101～イ 320 と同一）。